

大学受験日本史 (2021年11月20日改訂)

日本史Bに対応しています。

※日本史Aを選択している方は、近現代史を中心に学習してください。

大学入試に必要な日本史の項目を一気に攻略するための教材です。早稲田・慶応・同志社などの超難関大学以外を受験する方は、この教材だけで合格点確保のための知識は十分習得できますから、後は過去問で総仕上げをしておけば、だいじょうぶです。

■□■ 目次 ■□■

各単元内の学習項目は、TLTソフトの解説もしくは問題データの一部を自動的に抽出したものです。

1. 日本文化の黎明

第4紀は、約1万年前をさかいに()と完…
 氷期には日本列島は陸続きとなり、北からは(…
 約1万年前、大陸と切り離されて、現在とほぼ同…
 日本列島で発見された更新世の化石人骨として、…
 アジア大陸南部の古モンゴロイドと、()…
 人類がまだ金属器を知らない時代を()時…
 旧石器時代の人びとは、狩猟には()石器…
 旧石器時代の終わりごろには、()とよば…
 約1万年前、()になると、地球の気候は…
 ()文化は、約1万2300年前から弥生…
 縄文文化を特徴づけるのは、狩猟具の()…
 ()時代に用いられた土器は、表面に縄目…
 ()は、人びとが食べた貝などをすてたも…
 日本の近代科学としての考古学は、1877年に…
 縄文時代の住居は、地面を掘りくぼめ、そのうえ…
 人びとは、石器の原材料となる()や、(…
 縄文人たちは、あらゆる自然物や自然現象に霊威…
 縄文人は、呪術によって災いをさけ、獲物の増加…
 縄文人には、通過儀礼の一つとして()の…
 縄文時代の有名な遺跡として、青森県の(…

2. 弥生文化と小国の形成

中国では、紀元前3世紀に()・(…

紀元前4世紀ころ、西日本に()農耕を基…
 弥生文化は、北海道や南西諸島にはおよばず、北…
 弥生文化は水稻農耕を基礎とし、鉄器と(…
 弥生時代に用いられた土器は、()手で硬…
 収穫した穀物は、()とよばれる収納庫や…
 鋤・鍬などの()の製作には磨製石器が用…
 弥生時代の後期になると、生産性の低い(…
 九州以外の地域では、墓穴を掘って木棺を納めた…
 弥生時代には、方形の低い墳丘の周りに溝をめぐ…
 ()墓は2つの土器を合わせてその中に死…
 盛土をして墓域を画した墳丘を持つ墓を(…
 20～30戸程度の大きな集落が各地にあらわれ…
 集落の神祭りでは、銅鐸・銅剣・銅矛・銅戈など…
 釣鐘型青銅器である()は近畿地方を中心…
 島根県の()遺跡では、山の斜面に358…
 弥生中期になると、強力な集落は周辺の集落を統…
 『()』の地理志によると、()の…
 『()』東夷伝には、紀元57年に倭の奴…
 中国では、220年に後漢がほろび、かわって(…
 『()』倭人伝には、2世紀の終わりごろ…
 ()の死後、男王のもとでは国内がおさま…
 邪馬台国の所在地には、()説と(…

3. 古墳文化とヤマト政権

()世紀後半ないし()世紀初頭に…
出現期の古墳のなかでもっとも規模の大きなもの…
出現期の古墳で規模の大きい古墳が大和(…
古墳がいとなまれた()世紀なかごろから…
古墳で数の多いのは、墳丘の平面形が円形の(…
古墳の墳丘上にたてならべられた()は、…
埋葬施設は、古墳時代前期・中期には木棺や石棺…
古墳に遺体とともに埋葬された、銅鏡・宝器・武…
魏から卑弥呼に与えられた鏡とする説がある、前…
前方後円墳を代表する()古墳(仁徳天皇…
朝鮮半島では、4世紀に()が半島北部に…
()世紀後半、() (加羅)と密接…
『()』倭国伝に、()世紀初めか…
5～6世紀にかけて、主として()半島か…
渡来人のなかには、西文氏・東漢氏・秦氏らの祖…
渡来人により()も伝わり、()政…
()世紀に百済から来日した()に…
埴輪は、筒型などの()や、家・盾などの…
石室の壁画や石棺に彩色あるいは線刻された壁画…
山間や小島など一定地域内に()とよばれ…
古墳時代前期から中期にかけて、()土器…
奈良県大神神社や福岡県()大社では古墳…
鹿の骨を焼いてその割れ具合で吉凶を占う(…
()政権の中枢は、盟主である()…
豪族は()とよばれる血縁的結びつきをも…
一定の地域に基盤を持つ豪族には()、特…
大王家の政務や祭祀などのさまざまな職務を担当…
有力な豪族は、それぞれ私有地である()…
ヤマト政権の直轄地を()といい、田部と…

4. 推古朝の政治と飛鳥文化

筑紫の国造()が527年に反乱をおこし…
6世紀初めの()天皇の政権で、政治を指…
6世紀中ごろの()天皇のとき、仏教の受…
中国では、589年、北朝の()が南北朝…

587年、()が()をほろぼして…
()天皇は、甥の() (厩戸皇子)…
聖徳太子は、西暦()年に()の制…
西暦()年に聖徳太子は()を制定…
607年、聖徳太子は()を()と…
遣隋使には、()・南淵請安・僧(…
政権のおかれた飛鳥を中心に栄えた最初の仏教文…
607年に()が建てたといわれる(…
仏師() (止利仏師)の作といわれる法隆…
()の僧()によって絵の具・紙…
()が著したといわれる、法華経・維摩経…
百済の僧()が()をもたらし、年…

5. 律令国家の形成と白鳳文化

618年、中国では()がほろび、(…
馬子の死後蘇我()と子の蘇我()…
645年、() (のち藤原鎌足)は(…
645年、初めて年号をたてて()とし、…
新政府は、646年正月、()カ条からな…
660年、新羅と唐に滅ぼされた百済の救援要請…
中大兄皇子は、668年に即位して()天…
天智天皇が死去した翌年の西暦()年、天…
壬申の乱に勝った大海人皇子は、()で即…
天武天皇のあとは、皇后だった()天皇が…
690年、()令にもとづき()年…
()・持統天皇の時代におこった、律令国…
天武天皇は仏教を厚く信仰し、初め百済大寺・高…
()の仏頭は、685年につくられた金銅…
1949年に焼損した()や、1972年…
白鳳期には、宮廷で()皇子らがすぐれた…
701年、()親王や藤原不比等らにより…
律令で定められた統治機構のうち、中央では神々…
律令制度のもとで、全国は()・七道の行…
京には()、難波には()、外交…
()制度のもとで、中央・地方の諸官庁に…
律令制で、五位以上の()の子(三位以上…

()・国家・神社・尊属などに対する罪は…
律令政府は、人民を6年ごとにつくられた(…
()歳以上の男女に()を班給する…
()は古代の土地区画制度で、土地を36…
農民の負担としては、田1段につき稲2束2把を…
春に国家が農民に稲を貸しつけ、秋に利息とともに…
兵士は諸国におかれた()で訓練を受け、…
当時の身分制度では、人びとは()と(…

6. 奈良時代の政治

()は、西暦()年に第1回の派遣…
遣唐使にしたがって唐にわたった()らの…
7世紀末に中国東北部におこった()は、…
710年、()天皇のとき、都が藤原京か…
都を中心に道路が整備され、約16kmごとに駅…
708年、()が鑄造され、政府は(…
()を征討するため、大化の改新後、北陸…
8世紀に入り、日本海側に()国がおかれ…
713年、()の住む九州南部にあらたに…
藤原鎌足の子藤原()は、律令制度の確立…
729年、藤原不比等の4子は、策謀によって皇…
藤原4子の死後、政権をにぎった()のも…
()天皇は、西暦()年に(…
西暦()年、聖武天皇は近江の紫香楽で(…
()天皇の退位後、光明皇太后(光明子)…
藤原仲麻呂は、孝謙上皇に信任された僧(…
孝謙上皇はふたたび位について()天皇と…
生活の苦しい農民のなかには、()をすて…
人口増加による()の不足を補うため、政…
西暦()年に政府は()を發布し、…

7. 天平文化

奈良時代に()京を中心に栄えた高度な貴…
712年に完成した『()』は、天武天皇…
720年に完成した『()』は、(…
713年、政府は諸国の()・産物・伝説…
751年、わが国最古の漢詩集『()』が…

わが国最古の歌集『()』の代表的歌人に…
律令体制下の教育制度では、中央に()、…
奈良時代には、仏教は()のための宗教と…
唐僧()は盲目となりながらも来日し、わ…
民間に布教し政府の弾圧を受けながらも、(…
奈良時代には、国家の仏教保護を背景に、(…
東大寺の()には、()天皇の遺物…
奈良時代の彫刻では、それまでの金銅像のほか…
奈良時代の絵画には、薬師寺()のような…

8. 平安初期の政治と弘仁・貞観文化

()天皇は、784年に長岡京に、ついで…
桓武天皇は、蝦夷征討のため()を征夷大…
()天皇は、地方の政治について、(…
792年、()天皇は東北・九州を除いて…
()天皇は、官司や官人の整理・統合を行…
()天皇の即位後、奈良の()上皇…
嵯峨天皇のもとで、律令の規定を改正するものと…
令の条文の解釈を公式に統一するものとして『(…
政府は、大宰府管内に()、畿内に(…
9世紀には、天皇は()を持ち、皇族にも…
()遷都から9世紀末ころまでの平安初期…
唐から帰国した() (伝教大師)は、比叡…
最澄とともに唐にわたった() (弘法大師…
()は、顕教とはことなり、秘密の呪法を…
日本固有の神の信仰と仏教信仰との融合を(…
()は、山岳寺院の自由な()配置…
弘仁・貞観期の仏像は、()造で神秘的な…
仏の世界を壇の形式で図示したものを()…
弘仁・貞観期には、8世紀の『()』のあ…
唐風の書道のことを()といい、嵯峨天皇…
有力な貴族がひらいた()は官吏を養成す…

9. 摂関政治

()天皇のあつい信任を得た藤原(…
藤原冬嗣の子の藤原()は、()で…
884年、()天皇が即位すると、藤原良…

藤原基経の死後、()天皇は摂政・関白を…
10世紀の前半は、醍醐・()天皇が親政…
969年、左大臣()を()氏が左…
10世紀後半から11世紀ころ、藤原氏が天皇の…
藤原()の子の藤原()は、後一条…
()政治の基本となったのは、天皇を後見…
西暦()年、菅原道真の建議により、(…
東アジアでは、907年に唐がほろび、五代の諸…

10. 国風文化

()の廃止の影響などで、摂関時代を中心…
文化の()化をあらわすものに、平がなや…
905年、最初の()として『()…
かな物語では、伝説を題材とした『()』…
()の随筆『枕草子』は、紫式部の『源氏…
()習合の風もますますさかんで、在来の…
平安中期になると、怨霊や疫病の災厄をのがれよ…
阿弥陀仏を信仰し、来世において極楽浄土に(…
10世紀半ばに()が京の市中で浄土教を…
釈迦の死後、正法・()の世をへて末法の…
平安時代には、慶滋保胤の『()』など、…
貴族の住宅は、白木造・檜皮葺の()とよ…
寝殿造の住宅の襖や屏風に描かれた、唐絵に対し…
()政治全盛のころ、屋内の調度品には(…
書道では、前代の唐様に対し、優美な線をあらわ…
藤原道長が建立した()、その子頼通が建…
平等院鳳凰堂の本尊である()は、作者の…
往生しようとする人を迎えるため()仏が…
平安時代は、男子の正装は()やそれを簡…
平安時代には、男子は10～15歳くらいで(…

11. 荘園の発達と武士の台頭

()天皇は、902年に()の(…
914年、三善清行が()天皇に提出した…
租税徴収の対象となる田地は請負人の名をつけて…
私財を出して朝廷の儀式や寺社造営などを助け、…
()のなかには、地方に赴任しないで、目…

10世紀以降になると、貴族や大寺院の權威を背…
大名田堵は、()世紀になると()…
開発領主から寄進を受けた荘園領主は()…
()荘園では、寄進をした開発領主が下司…
開発領主と国司の対立がはげしくなると、(…
貴族や寺社の支配する荘園が増大する一方、国司…
国司は、豪族・開発領主らをあらたに郡司・(…
12世紀ごろ、荘園や公領では、耕地の大部分が…
地方政治が大きく変質していくなかで、豪族や有…
関東の地に早くから根を下ろした()のう…
平将門の乱と同じころ、もと伊予の国司であった…
地方武士の実力を知った朝廷や貴族は、彼らを(…
地方()は中央貴族の血筋を引くものを(…
清和源氏の源()とその子の頼光・頼信兄…
1051年、陸奥の豪族安倍氏が国司に反抗した…
清原氏の内紛がおこると、陸奥守として赴任した…
奥羽地方では、陸奥の()を根拠地とする…

12. 院政・平氏政権と院政期の文化

()天皇は、1069年()の荘園…
()天皇は、1086年に譲位して(…
()上皇は、院の御所に()をおい…
白河・鳥羽・後白河の3上皇は仏教をあつく信仰…
上皇のまわりには、受領出身者や后妃・乳母の一…
院政期には、()の制度が広まって、公領…
平安後期、()とよばれた興福寺・延暦寺…
伊賀・伊勢に勢力を持っていた平()は白…
1156年、()上皇・()天皇兄…
1159年、平清盛と結ぶ藤原() (信西…
政権を獲得した平清盛は、娘の() (建礼…
平清盛は()を進めるため、摂津の(…
1177年、()法皇の近臣らが京都郊外…
寺院に所属しない()とよばれる民間の布…
後白河法皇は民間の流行歌謡である()を…
平安末期にまとめられた『()』は、イン…
平安中期以降に流行した()のときに行わ…

『栄花(華)物語』や『大鏡』などは、貴族の華…
絵と詞書とを交互に書いて時間の進行を表現する…
安芸の()神社には、豪華な装飾と装丁で…

13. 鎌倉幕府の成立

()法皇をしりぞけ、1180年に孫の(…
1180年に平氏打倒の兵をあげ、宇治で敗死し…
以仁王のよびかけに応じて平氏打倒の兵をあげた…
平氏と源氏の戦いがもととなり、()と源…
平氏が一時的に平安京から移した都を()…
治承・()の乱の間の、畿内・西国を中心…
源()の弟で、平氏追討の軍を率いたのは…
源義経との戦いによって平氏が滅亡した場所は、…
源頼朝が政権の根拠地としたのは()国の…
鎌倉幕府の()と主従関係を結んだ武士の…
1183年に源()が()法皇から…
西暦()年、源頼朝は後白河法皇から(…
源()によって開かれた、全国的な武家政…
西暦()年に源頼朝は()に任じら…
鎌倉幕府が成立してから、西暦()年に滅…
鎌倉幕府の()機関には、()・政…
鎌倉幕府の()の職務の中で、最も重要な…
鎌倉幕府の地方機関の中には、後に()と…
御家人に先祖伝来の所領支配を保障することを(…
御家人が京都の皇居の警護をすることを(…
主人と従者が()と奉公の関係で結ばれる…
鎌倉幕府の将軍の所有する知行国を()と…
鎌倉幕府と朝廷の関係は、()とよばれる…
一国内の()・公領ごとの田地の面積や、…

14. 執権政治の展開と社会の動向

源頼朝の死後、あいついで将軍となった源(…
1203年、源頼朝の妻北条()の父であ…
北条時政から()の地位を継承した(…
()は分散していた広大な皇室領の荘園を…
北条義時の子北条()、弟の時房らのひき…
()後、幕府は皇位の継承に介入すると…

()後にあたらしく地頭をおいた土地で、…
北条泰時は、執権を補佐する()をおき、…
()年、北条()は()51…
泰時の孫である()代執権北条()…
鎌倉時代の武士の大部分は、その所領の中心地を…
()時代の武士は、一族の子弟たちに所領…
強い血縁的統制のもとに、宗家(本家)と分家は…
武士はみずからの地位をまもるためにも、武芸を…
武士の日常生活のなかから生まれた「武家のなら…
荘園・公領の領主たちのなかには、地頭との間に…

15. 元寇と鎌倉幕府の衰退

()世紀初めにモンゴル(蒙古)高原にあ…
チンギス=ハンの孫である()は、中国支…
幕府執権北条()がフビライの朝貢要求を…
西暦()年、元は再度大軍をもって九州に…
幕府は、元軍の来襲にそなえて、九州北部の要地…
幕府支配権の全国的強化にともなって北条氏の権…
得宗権力の拡大に伴い、幕府内では得宗家臣の御…
北条時宗の子である北条()の代になると…
元寇前後のころには、農業技術は発展し、(…
荘園・公領の中心地や交通の要地、寺社の門前な…
商工業者たちは、()時代の後期ころから…
商業取引の活発化に伴い、交通の要地には、商品…
遠隔地間の商取引には金銭の輸送を現金ではなく…
高利貸業者の()が、元寇や貨幣経済の発…
畿内やその周辺で、()や非御家人の新興…
御家人たちの多くは()のくりかえしによ…

16. 鎌倉文化

美作の武士の家に生まれ、天台の教学を学んだ(…
法然は、()を唱えれば、死後平等に極楽…
貴族の家に生まれた()は、法然の弟子と…
親鸞は師()の教えを一步進め、煩惱の多…
浄土教の流れのなかから、やや遅れてでたのが伊…
一遍は、すべての人が救われるという念仏の教え…
安房の一漁村に生まれ、古くからの()信…

はじめ天台宗を学んだ日蓮は、やがて法華経を釈…
()によってみずからを鍛練し、釈迦の境…
禅宗は、12世紀末ころ宋に渡った天台僧(…
栄西以来、幕府は()宗を重んじ、宋から…
幕府との結びつきを強めた禅宗のなかで、ただし…
臨済宗は坐禅のなかで()という問題を解…
旧仏教側も鎌倉時代の初めころ、法相宗の(…
律宗の()(思円)と()(良観)…
旧仏教各宗のもとでは、古くからの山岳宗教とむ…
武士の家に生まれた()は、歌集『山家集…
『方丈記』の作者()は、人間も社会も転…
()の乱の直前に、()は歴史をつ…
後鳥羽上皇の命で選ばれた『()』の撰者…
鎌倉時代、武士の間には定家に学んで、その歌を…
戦いを題材に、実在の武士の活躍ぶりを生き生き…
『平家物語』は、()によって()…
()時代末にでた()の『徒然草』…
()時代公家の間で、すぎざったよき時代…
北条氏一族である北条()とその子孫は、…
()幕府の関係者は、幕府の歴史を日記体…
鎌倉末期には、()におこった()…
鎌倉末期、鎌倉仏教の影響をうけた独自の神道理…
源平争乱によって焼失した奈良の諸寺の復興のた…
建築では、()時代以来の日本的なやわら…
建築様式として、鎌倉時代には新たに大陸から、…
大仏様は、鎌倉時代初めの()寺再建にあ…
鎌倉時代の建築様式として、大陸から伝えられた…
絵画では、()時代後期に物語の挿絵から…
個人の肖像を描く写実的な()には、鎌倉…
禅宗の僧侶が師僧の肖像画()を崇拝する…
書道では、鎌倉時代に宋・元の書風が伝えられた…
鎌倉時代には、宋・()の強い影響を受け…

17. 南北朝の動乱と室町幕府の成立

鎌倉中期以降、皇室は後深草上皇の流れの(…
()世紀初め、鎌倉幕府は持明院統と大覚…

()は()統から即位し、宋学の大…
鎌倉幕府では執権北条()のもとで内管領…
元弘の変で後醍醐天皇は隠岐に流されたが、その…
幕府の有力御家人()は幕府軍の指揮官と…
後醍醐天皇は京都に帰り、新しい政治をはじめた…
建武の新政は現実的には鎌倉幕府の遺産を無視で…
建武の新政では諸国に国司と守護が併置されたが…
1335(建武2)年、北条()の子時行…
1336(建武3)年、京都を制圧した足利尊氏…
建武の新政の崩壊後、後醍醐天皇は京都を逃れ、…
北朝側では、直義の支持勢力と尊氏の執事(…
武士社会の相続法は鎌倉後期より徐々に(…
尊氏の孫足利()は1392年、南朝側と…
幕府の機構は義満の時代にほぼ整い、()…
幕府は將軍権力を支える軍事力の育成に努め、古…
()は、義満が1390()元)年…
室町幕府の財政は、御料所からの収入や守護の分…
幕府の地方機関としては、鎌倉()や九州…
動乱の中で力を増した地方武士を各国ごとに統括…
地方武士を組織化するために、幕府は守護に鎌倉…
荘園領主がその荘園や公領の年貢の徴収を(…
鎌倉幕府体制下の守護と区別して、この時代の守…
室町時代()と呼ばれた地頭などの領主で…
14世紀後半から15世紀にかけてのころ、(…
元寇の後、元と日本との間に正式な外交関係はな…
1368年、中国では朱元璋(太祖洪武帝)が(…
明を中心とした国際秩序の中で行われた(…
勘合貿易は1404年に始まったが、4代將軍足…
朝鮮半島では、1392年、倭寇を撃退し名声を…
日朝貿易は()によって一時中断したが、…
沖縄では、14世紀後半から15世紀にかけて北…
14世紀以降、南から()海峡を渡った人…
古くから北海道に住み、漁り・狩りや交易を生業…

18. 室町幕府の衰退と民衆の成長

鎌倉時代の後期、()地方やその周辺部に…

惣村は()という村民の会議の決定にした…
惣村において惣百姓と呼ばれた村民は自ら守るべ…
惣村は、農業生産に必要な山や野原などの(…
強い連帯意識で結ばれた()の農民は、領…
惣村が母体となった農民勢力が、大きな力となっ…
6代将軍足利()は、幕府における将軍権…
足利義教は専制政治を強行したため政治不安が高…
将軍権力の弱体化にともなって幕府政治の実権が…
応仁・文明の乱は管領家畠山・斯波両氏、将軍家…
応仁・文明の乱に端を発する混乱の中で、地方の…
()の一向一揆は()(兼寿)の布…
室町時代の農業では、灌漑や排水施設の整備・改…
()時代、手工業者の同業組合である(…
農業や手工業の発達により、地方の市場もその数…
室町時代には、()商人や()とよ…
都市では()をかまえた常設の小売店も次…
商人の()も手工業者のそれと同様に、そ…
商品経済が盛んになると、()等の貨幣の…
粗悪な私鑄銭が流通すると、取引にあたって悪銭…
貨幣経済の発展は金融業者の活動を促した。当時…
遠隔地取引の活発化により、交通路が発達し、(…

19. 室町文化

南北朝時代の歴史書には、源平の争乱以後の歴史…
()氏の政権獲得までの過程を武家の立場…
()物語では、南北朝の動乱の全体を描こ…
「二条河原落書」に風刺されているように、公家…
茶寄合も各地で行われ、茶の異同を飲みわけて、…
足利()が京都の北山に建てた別荘である…
鎌倉時代、武家社会の上層に広まった()…
足利義満は、南宋の官寺の制にならい、京都と鎌…
五山の禅僧たちには、中国からの渡来僧、中国で…
五山の禅僧たちのあいだで盛んに行われていた、…
五山の禅僧は、()とよばれる()…
古く神事芸能として出発した猿楽や()か…
大和猿楽四座の()にでた()・世…

観阿弥・世阿弥父子は、能の脚本である(…
足利()は応仁・文明の乱後、京都の東山…
銀閣の下層および()にみられる(…
()造の住宅や禅宗様の寺院などには、岩…
墨の濃淡で自然や人物を象徴的に表現する(…
大和絵では、応仁・文明の乱後、土佐光信が出て…
東山文化のなかで、日本の伝統文化を代表する(…
茶道とともに日本の伝統文化を代表する(…
政治的・経済的に力を失った公家は、()…
神道思想の立場からする『日本書紀』などの研究…
古典では『()』がはやくから和歌の聖典…
素朴で娯楽性の強い能が祭礼のさい、盛んに演じ…
狂言のほかにも室町時代の庶民にもてはやされた芸…
南北朝時代にでた()は連歌集である『(…
応仁のころ飯尾()が()を確立し…
宗祇の正風連歌がおびただしい規則と形式にしば…
()時代に大いに流行した物語として、絵…
今日なお各地で盛んに行われている()も…
禅宗の()は室町幕府の衰退とともにおと…
朝廷との結びつきを深めて京都で勢力を拡大した…
はじめ東国を基盤にして発展した()は、…
京都の日蓮宗の信者たちは、1532年、京都を…
()は、農民のほか、各地を移動して生活…
蓮如は教線の拡大のため、()を組織して…
浄土真宗の勢力拡大は、大名権力と門徒集団との…

20. 戦国大名の領国経営

応仁・文明の乱以後、各地方では自らの力につく…
関東では、応仁・文明の乱の直前に鎌倉公方が足…
関東の混乱に乗じて、15世紀末に京都から下っ…
中部地方では、16世紀半ばに越後守護代の子で…
中国地方では、守護大名()氏が家臣陶晴…
()大名は、新しく服属させた国人とともに…
大名は、()によって国人・地侍らを統一…
多数の()を家臣団に組み入れて、彼らを…
()大名は、領国安定のためさまざまな政…

戦国大名が制定した分国法のなかには、(…
戦国大名は新たに支配した土地に()をし…
()大名の検地は、家臣である領主や名主…
()大名は、自らの居城のある場所に家臣…
戦国時代には、商品経済の発展により農村の市場…
()宗の勢力の強い地域では、その寺院や…
()町や新設の市場・町は、市座などを設…
戦国時代には、各地方の()町と中央の京…
富裕な商工業者たちが自治組織をつかって平和で…
堺のほか、戦国時代の()都市として著名…
戦国時代の京都では、農村での村に対応して、富…
()の乱後、戦火で焼かれた京都の町は、…
応仁・文明の乱により、公家など中央の文化人が…
薩摩に招かれて活躍した桂庵玄樹と同様、土佐で…
関東では、15世紀中ごろ、関東管領の(…

21. 織豊政権と桃山文化

15世紀後半から16世紀にかけてヨーロッパ諸…
1543(天文12)年にポルトガル人が(…
16世紀当時の日本ではポルトガル人やスペイン…
南蛮貿易はキリスト教の布教活動と一体化して行…
南蛮貿易を行う大名の中には、自ら洗礼を受けて…
尾張の戦国大名である()は()で…
織田信長は比叡山()を焼打ちして宗教勢…
織田信長は当時畿内の自治都市として繁栄を誇っ…
豊臣秀吉は()では明智光秀を、(…
1585年に朝廷から()に任じられ、翌…
軍事的征服のみならず()に後陽成天皇を…
豊臣政権は各地に()をもうけ、佐渡相川…
秀吉晩年期における豊臣政権の政治制度は、腹心…
秀吉が実施した()によって全国の生産力…
太閤検地では新しい町・段・畝・歩で土地面積が…
()に登録されている土地一筆ごとに耕作…
豊臣秀吉は農民と武士の区別をはっきりさせた…
()は大名のキリスト教入信を許可制にし…
1596(慶長元)年の()をきっかけに…

1588年秀吉は()など海賊行為を取り…
秀吉は朝鮮に対して1592年と1597年の二…
信長・秀吉の時代をその居城の地名にちなんで(…
桃山文化を象徴するのが()建築であり、…
安土桃山時代の城の内部の襖・壁・屏風には、金…
桃山文化で名高い絵師には狩野派の狩野(…
桃山文化の彫刻としては()がさかんであ…
桃山文化のいない手には新興の武将のほか、京都…
()が京都でかぶき踊りをはじめ、これが…
桃山時代の庶民の娯楽としては琉球から渡来した…
安土桃山時代の衣服では()が一般に用い…
南蛮貿易にもなって南蛮文化が日本にもちこま…

22. 幕藩体制の成立と寛永期の文化

()は豊臣秀吉のもとでは五大老の筆頭に…
1600(慶長5)年、石田三成は()を…
徳川家康は1603(慶長8)年()の宣…
徳川家康が幕府をひらいた後も秀吉の子の豊臣(…
徳川()は將軍職が徳川家の世襲であるこ…
江戸幕府は大坂の役直後の1615年、大名の居…
2代將軍徳川()のあとを継いだのは、徳…
武士が主君に対して負う軍事上の負担を(…
將軍と主従関係を結んだ()万石以上の武…
()は、將軍との親疎の関係で親藩・(…
()のなかで、大名は国元と()と…
強力な領主権をもつ將軍と()が、土地と…
江戸幕府の()領で、俗に天領ともよばれ…
江戸幕府において、()直属の家臣団を構…
江戸幕府の職制において、幕政を統括するために…
江戸幕府の職制のなかで、老中を補佐するものに…
江戸幕府の重要事項は、()で()…
江戸幕府の職制には、大名を監察する()…
江戸幕府の職制で、寺社奉行・町奉行・(…
江戸時代、京都には()がおかれ、(…
江戸幕府は、重要都市を支配するため、(…
江戸幕府は、幕府直轄地を支配するために、関東…

大名の領地とその支配機構を総称して()…
大名領において、家臣に土地を与え、領民支配を…
江戸時代に、幕府や諸藩が、年貢として納められ…
徳川家康は 1611 年、()天皇を擁立し…
西暦()年、朝廷に対する統制の基準を明…
朝廷と幕府をつなぐ窓口として、()と連…
江戸幕府は仏教寺院の統制のために()を…
1627 年、紫衣着用の勅許を江戸幕府が無効に…
1612 年、直轄領に()を出したあと、…
1622 年、長崎で 55 名のキリスト教徒を処刑…
1614 年、キリスト教の()令にともな…
過酷な年貢負担と厳しいキリスト教弾圧の結果、…
幕府はキリスト教徒弾圧のために、信者でないこ…
日蓮宗()は、()教とともに江戸…
江戸幕府は、寺院に対して宗派ごとに()…
近世の社会を構成した最大の要素は、集落の単位…
()や郷村が分割されたり、江戸時代をつ…
村の運営は、名主・()・百姓代からなる…
村においては、()地の共同利用、用水や…
幕府や諸藩・旗本が、年貢・諸役の割り当てや納…
年貢の納入や犯罪防止の()責任を負わせ…
田畑をもち、地主のもとで()を営んだ…
百姓は領主に対して田・畑や家屋敷といった高請…
百姓の負担には年貢のほかにも山野河海の利用や…
百姓の経営安定のために幕府は 1643(寛永 2…
幕府は田畑()を没収し、百姓の生活維持の…
近世には中世と比べて、高田(現、上越市)など…
()町の中で商人や職人は()と呼…
商人や職人の居住する町人地には()とい…
町の運営は、町内に宅地の町屋敷をもつ(…
町には家持の()のほかにも、宅地を借りて…
近世の都市には、城下町のほかにも、貿易によって…
近世都市の中でも()・大坂・京都は(…
近世社会は、実に様々な身分が存在した。その中…
武士・()・職人・商人以外にも、僧侶や…

1600(慶長 5)年、航海士() (耶揚…
17 世紀前半に徳川家康の命を受けた()…
()に拠点を置くポルトガル商人に対抗す…
海外貿易は幕府が海外渡航を許可した()…
()体制が固まるにつれ、日本人の海外渡…
1616 年、ヨーロッパ船の寄港地が()…
()は清・朝鮮と並んで鎖国時に日本と貿…
()は()世紀半ばに成立した王朝…
徳川家康は()との講和を望み、1609…
()王国は 1609(慶長 14)年島津家…
現在の北海道は、()氏が 1604 年に藩…
()地において、和人がアイヌ集団と交易…
和人のふるまいに不満を持った()集団は…
18 世紀前半に、()集団と交易をする商…
()学一派で、君臣や父子の別をわきま…
京都相国寺の禅僧で、近世初期に還俗して(…
藤原惺窩の門人の林() (道春)は家康に…
江戸時代初期の建築では()など霊廟建築…
京都の()の書院は書院造に草庵風の茶室…
江戸時代初めの絵画では、狩野派の狩野(…
京都の上層町衆であった()は多彩な文化…
朝鮮人の陶工によって鍋島氏のもとで()…
江戸時代初めの文芸としては御伽草子のあとをう…

23. 幕府政治の展開

山崎闇斎に儒学を学んだ()は、家光の死…
幕府が安定期を迎える中で、重要な政治課題とな…
1651 年 7 月、兵学者()の乱(…
1663 年、家綱は代がわりの武家諸法度を発布…
会津藩の保科正之、岡山藩の()、水戸藩…
5 代将軍となった徳川()は、はじめ堀田…
綱吉は、() (鳳岡)を大学頭に任じ、ま…
1685 年、徳川()は()の令を…
1701 年、()城中で赤穂藩主浅野長矩…
近親者に死者があったとき、喪に服したり忌引き…
1657 年、()におこった大火を(…

勘定吟味役(のち勘定奉行)の()は、貨…
6代将軍徳川家宣は、朱子学者の()と側…
新井白石は、()を創設して、天皇家と将…
新井白石は、良質の()を鑄造し、長崎で…

24. 産業と都市の発展

()世紀末以降、有力な都市商人が資金を…
江戸時代半ばになると、深耕用の()、脱…
肥料はおもに村内外の山野から採る()に…
江戸時代には、宮崎安貞の『()』、大蔵…
諸大名は、治水工事を進め、()開発によ…
()を中心とする漁法の改良が進み、九十…
()地では、昆布やいりこ・ほしあわび…
製塩業では、()塩田が発達し、(…
林業では、建築資材の大量需要で急速に発達し、…
砂鉄の採集による()精錬が()地…
農村では、百姓の零細な()工業として多…
木綿は、戦国末期に()から綿作が伝わる…
金襴・緞子などの高級品は、京都の()で…
紙の生産地の多くでは()制がしかれ、藩…
農村で発達した手工業生産は、()世紀に…
()・大坂・京都の三都を結んだ(…
五街道などの()に対して、それ以外の街…
街道沿いの城下町中心部や小都市には()…
幕府や大名の通行に用いる人馬が無料または一般…
宿場には()が設置され、伝馬役の差配や…
宿駅の中心には、大名などが利用する()…
大坂・江戸間の定期船である()は17世…
17世紀前半、江戸の商人()は(…
堺・京都・博多・長崎などを根拠地とした(…
17世紀になると、三都や城下町において、(…
江戸の()や大坂の()は、仲間の…
()の支配のもとで、他所の商人や小売商…
幕府は、()・冥加という営業税を負担す…
小売商人の多くは、店舗をもたない零細な商人で…
全国的に通用する同じ規格の金・銀の貨幣は、1…

寛永期に()を設け、ぼう大な量の銅銭…
東日本ではおもに金が取引の中心で、()…
17世紀後半から、各藩では、()が領内…
金貨・()・銭貨は、三都や各城下町の(…
全国市場の要である江戸・大坂・()を総…
京都には、()織や()などの染物…

25. 元禄文化

17世紀末から18世紀初めにかけて、京都・大…
()文化では、現世を「()」とす…
元禄期の文学は、()の町人文芸が中心で…
()は、西山宗因がはじめた()俳…
世話物の『曾根崎心中』や時代物の『国性(姓)…
()では、江戸に荒事で好評を得た初代(…
儒学の中でも、礼節をたつとぶ()の思想…
南村梅軒によってひらかれ、土佐の谷時中にうけ…
朱子学に対し、()やその門人の熊沢蕃山…
()派には、『聖教要録』を著した(…
()は『政談』を将軍吉宗に提出し、経世…
武家政権の推移を段階的に時代区分して独自の史…
自然科学では、()の() (博物学…
()は和算を大成し、() (渋川春…
()は、和歌に使えない言葉が中世以来定…
『万葉集』を研究した()が『万葉代匠記…
絵画では、大和絵系統の土佐派から出た(…
京都の()は、俵屋宗達の装飾的な画法を…
浮世絵の()をはじめた()は、『…
京焼の祖といわれる色絵を得意とした陶工の(…
友禅染は、元禄期に()によりはじめられ…

26. 幕藩体制の動揺と幕政の改革

紀伊藩主の徳川()が8代将軍をつぎ、(…
徳川()は、旗本の大岡忠相や、『民間省…
徳川()は、旗本の人材登用にあって、…
享保の改革の中心は、財政の再建にあったので、…
徳川吉宗は、従来の()を改め、(…
徳川()は、商人資本の力を借りて(…

徳川吉宗は、() (さつまいも)・さとう…
 徳川吉宗は、()市街の防火にあたる(…
 徳川吉宗は、評定所に()を設けて庶民の…
 徳川()は、1742年に()を制…
 窮乏する()・御家人の救済を目的に、続…
 一部の有力な村役人である()は、みずか…
 村役人などの豪農に対して、小百姓や小作人らが…
 問屋商人のなかには、()商をかねて、伊…
 都市の()商人は、農村の工業を(…
 問屋・()と小売商人との売買の場である…
 都市民衆は、九尺二間といわれる零細な(…
 百姓は、()や藩の支配が彼らの暮らしや…
 百姓一揆は、村々の代表者が直訴する()…
 惣百姓一揆が藩領全域におよぶときは、(…
 代表越訴型一揆の代表者は、()の佐倉惣…
 1732年に西日本一帯でおこった大凶作は全国…
 9代将軍徳川()・10代将軍徳川(…
 田沼意次は、()を公認し、()や…
 ()は、はじめて定量計数銀貨である(…
 田沼意次は、仙台藩の医師()の意見をと…
 11代将軍徳川()の補佐として老中にな…
 松平定信は、飢饉にそなえて、各地に()…
 ()は、農民の出かせぎを制限し、正業を…
 松平定信は、石川島に()を設け、また江…
 松平定信は、旗本・御家人を救済するため、(…
 松平定信は、1790年に湯島聖堂の学問所で(…
 ()は、政治への諷刺や批判をおさえた…
 1789年、光格天皇の実父閑院宮典仁親王に太…
 諸藩では、()改革が広く行われ、特産物…
 藩政改革を行い、名君として評価された大名に、…

27. 列強の接近と天保の改革

1792年、ロシアの()が根室に来航し…
 1798年、幕府は()らに千島を探検さ…
 西暦()年、ロシアの使節()が長…
 1807年、幕府は松前・()地をすべて…

1808年、()は樺太とその対岸を探索…
 1811年、ロシアとの間でおこった()…
 1808年、オランダ船を追って()軍艦…
 1825年、幕府が出した() (無二念打…
 モリソン号事件について、1838年、(…
 松平定信が老中を辞任したのち、11代将軍徳川…
 幕府は1805年、()を設けて犯罪者の…
 幕府は、近隣の村々をよせあつめた()を…
 ()年間の1832～33年には大凶作と…
 西暦()年、窮民救済のため、大坂町奉行…
 ()の波紋は全国におよび、国学者の(…
 1841年、老中となった()を中心に行…
 天保年間に、()は、江戸城中もふくめ断…
 水野忠邦は、()を出し、農民の出稼ぎを…
 ()は、()の解散を命じ、江戸周…
 水野忠邦は、1843年に()を出し、江…
 19世紀にはいと、商品生産地域では(…
 ()仕法で知られる、勤儉・節約を説いた…
 () (薩摩)藩は、1827年、(…
 鹿児島藩の()は、鹿児島に()を…
 () (長州)藩の藩政改革に登用された(…
 () (肥前)藩では、藩主()が、…
 諸藩では()改革が行われ、() (…
 ()藩では、藩主の徳川()の努力…
 藩政改革は、薩長土肥などの西南の大藩のほか、…
 幕府は幕末期には、代官() (坦庵)に命…

28. 化政文化

文化・()時代を中心とした江戸時代後期…
 小説では、さし絵で読者をひきつける()…
 洒落本や黄表紙は、代表作家の()が寛政…
 滑稽本には、()の『浮世風呂』、(…
 恋愛物をあつかった()作家の為永春水は…
 文章主体の小説で歴史や伝説を素材にした(…
 ()では、18世紀後半に京都の(…
 俳句の形をかりた世相風刺・人情の機微をついた…

和歌から派生した戯れの文芸である()の…
和歌では、越後の()が独自の生活歌をよ…
演劇では、18世紀前半に()作家である…
天明のころに近松半二がでたと、()は…
日本の()を研究し、日本古来の道を説く…
国学の四大人とは、荷田春満、その門人の(…
『()』を編纂した()は、和学講…
()は、イタリア人シドッチの訳問で得た…
8代将軍徳川()は、漢訳洋書の輸入制限…
医学では、臨床実験を重視し漢代の医術にもどろ…
1774年、()や杉田玄白らは、西洋医…
前野良沢や杉田玄白らに続いて、()は『…
幕府は18世紀半ばに() (暦局)をおき…
長崎通詞の()は『暦象新書』を訳し、ニ…
全国の沿岸を実測し、『大日本沿海輿地全図』を…
幕府は、洋書の翻訳にあたらせるため()…
オランダ商館医でドイツ人の()は長崎郊…
()は、()に適塾(適々斎塾)を…
洋学研究は、1828年の()事件や、1…
儒学は、18世紀後半には、古学派や諸学折衷の…
幕府は、()聖堂を、のちに官立の(…
()世紀末以降、多くの藩で藩士の子弟教…
庶民教育を目的とする() (郷校)は、岡…
民間でも、武士・学者・町人によって()…
庶民の初等教育機関である() (手習所)…
京都の()は()をおこし、町人道…
17世紀後半から18世紀初めにかけて、『大学…
江戸の医者()は、『自然真営道』を著し…
『西域物語』『経世秘策』の著者()は西…
『大日本史』編纂事業を中心におこった学派を(…
18世紀半ばに、()が京都で公家たちに…
()の復古神道は、幕末期の()論…
18世紀半ばに出た()は、錦絵とよばれ…
寛政ごろ、多くの美人画を描いた()、役…
天保ごろには、『富嶽三十六景』を描いた(…

()法を取り入れた立体感のある作品を描…
() (松村月溪)は円山派からわかれて日…
()画は、『十便十宜図』を描いた(…
文人画は、化政期以降の豊後の()、江戸…
西洋画では、蘭学書によって西洋画法を学んだ(…
寺社は修繕費や経営費を得るため、()や…
江戸時代には、多数の民衆が爆発的に()…
江戸時代には、聖地・霊場を巡拝する()…
庶民には、五節句や彼岸会・盂蘭盆、神に酒肴を…

29. 開国と幕府の滅亡

()で清が敗北したことが伝わると、幕府…
1846年、アメリカ東インド艦隊司令長官(…
1853年、アメリカ東インド艦隊司令長官(…
1854年、ペリーは軍艦7隻をひきいてふたた…
日米和親条約では、下田と()を開港して…
1853年、ロシアの()が来航し、18…
幕府は、アメリカ・オランダ・()・ロシ…
阿部正弘は、江戸湾岸防備のため、品川沖に(…
1856年、アメリカの総領事として下田に着任…
1858年、清が()事件の結果として、…
日米修好通商条約では、神奈川・長崎・(…
日米修好通商条約で定められた関税制度は一般に…
幕府は、日米修好通商条約とほぼ同じ内容の条約…
1860年、幕府は日米修好通商条約の批准書交…
アメリカは南北戦争により国際競争から一時後退…
1865年の日本の輸出品の第1位は()…
開港後の金銀比価は、国内では1:()、…
開港後、在郷商人が、江戸の間屋を通さずに品物…
五品江戸廻送令の五品とは、「続徳川実紀」に記…
13代将軍徳川()には子がなく、そのあ…
将軍継嗣問題で、徳川()をおす南紀派は…
将軍継嗣問題で、水戸藩主徳川斉昭の子である…
将軍継嗣問題や通商条約の調印に対する反対派が…
万延元年三月三日、()脱藩の志士たちは…
桜田門外の変のあと、幕政の中心となった(…

1862年、老中安藤信正は、()門外で…
品川の東禅寺にあるイギリス公使館が水戸藩浪士…
1862年、江戸から帰る途中の島津久光の行列…
1863年、薩摩・会津の両藩によって、長州藩…
八月十八日の政変で京都を追われた()藩…
池田屋事件は、京都守護職の下部組織である(…
1864年、()を先頭にした、アメリカ…
イギリス・アメリカ・フランス・オランダの4か…
イギリス公使の()は、天皇を中心とする…
長州藩内部では、高杉晋作や()(木戸孝…
薩長連合は1866年に、薩摩側()、長…
開国後の社会不安は大きく、国学の()思…
「ええじゃないか」の前史として、1705年、…
薩長両藩は、公家の()らと結んで186…
1867年、土佐藩士後藤象二郎(のちに自由党…
1867年12月に発せられた()では、…
王政復古の大号令が出された夜、三職によって(…
幕府は開国後、()をもうけて洋学の教授…

30. 明治維新と近代国家の形成

徳川()に対して出された辞官納地の命令…
戊辰戦争の際、東北諸藩は北越の諸藩と呼応して…
1869年、箱館の()にたてこもった旧…
1868～69年の、旧幕府軍と新政府軍との内…
1868年3月に明治天皇が出した歴史的文書を…
一般庶民に対しては、五箇条の御誓文と同時に(…
1868年閏4月()を制定して、国家権…
1868年8月に明治天皇の即位式が行われ、9…
1869年、新政府は各藩に()を命じ、…
1871年に行われた()は、薩摩・長州…
政府の新機構は、三条実美や()らの少数…
明治政府は、廃藩とともに藩兵を解散して全国の…
1874年、東京の警察行政を行うために東京(…
版籍奉還により、大名は()、藩士は士族…
1873年、希望者には家禄を現金と秩禄公債で…
1876年()が出され、すべての特権を…

新政府は財源の安定をはかるため、1872年に…
1873年()条例が公布され、課税基準…
1870年に設置された()省(初代長官…
1871年に、()の建議により飛脚にか…
生糸の生産をのぼすため、1872年、群馬県に…
1873年設立された()省(初代長官大…
明治政府は1869年、蝦夷地を北海道とあらた…
1871年、()が出され、円を基準に十…
1872年、()が中心となって(…
殖産興業政策が進められる過程で、三井や(…
()の『西洋事情』学問のすゝめ』文…
教育の面では、1871年()省が新設さ…
明治政府は、1877年東京大学を設立し、いつ…
1868年の神仏分離令によって()運動…
1873年、森有礼・福沢諭吉などの知識人が集…
明治政府は、1872年末から旧暦にかかわって(…
条約改正のため、1871年、右大臣()…
1876年から外務卿()が()と…
1871年、清との間に結ばれた対等な条約を日…
1873年、西郷隆盛・板垣退助らが()…
明治政府は、1879年、琉球藩を廃して(…
1875年、明治政府は特使()を派遣し…
1876年に、日本の()諸島領有が決ま…
1873年征韓論争に決着がつくと、西郷隆盛…
1874年、()は佐賀の乱をおこし、1…
徴兵令への農民の反発は強く、1873年、西南…
1876年には、地租改正反対一揆がおこり、政…
1877年におきた、()を首領として、…

31. 明治憲法体制の成立と日清戦争

1874年、板垣退助は郷里の高知で()…
1875年、()は、台湾出兵に反対して…
1875年の大阪会議の結果、右院・左院にかわ…
1875年、政府は讒謗律(ざんぼうりつ)や(…
1878年、郡区町村編制法・府県会規則・地方…
1880年、愛国社から名称を改めた()…

開拓使官有物払下げ事件をきっかけにして(…
交詢社の「私擬憲法案」、()が起草した…
1881年の国会開設の勅諭を受けて、板垣退助…
1881年大蔵卿に就任した()は、軍事…
大蔵卿()のもとで1882年に創設され…
大蔵卿()のデフレ政策の結果、米や生糸…
激化事件には、1882年におきた、県令三島通…
1886年、旧自由党員の星亨らが()を…
1887年、条約改正・()・言論集会の…
1882年に憲法調査のためにヨーロッパに派遣…
1884年に()が出され、貴族院議員選…
皇室事務全般を管轄する()大臣が内閣外…
地方制度については、ドイツ人顧問()の…
明治憲法制定については、ドイツ人顧問ロエスレ…
憲法の草案ができると、()で審議が重ね…
大日本帝国憲法と同じ日に制定された、皇室に関…
帝国議会は、()院と衆議院からなってい…
民法は、はじめフランス人の()が起草し…
第1回選挙の選挙権は満()歳以上の男子…
1890年に実施された日本初の衆議院議員総選…
憲法発布直後に()首相は、政府の政策は…
岩倉具視・寺島宗則の条約改正交渉失敗にあとを…
井上馨のあと外相になった()は、国別に…
大隈重信のあと、()外相が条約改正交渉…
第2次伊藤博文内閣の外相()は、189…
1911年、第2次桂太郎内閣の外相()…
1882年の()事変、1884年の(…
朝鮮をめぐる日清両国の対立は、1885年、(…
1885年、()は『時事新報』に「脱亜…
1894年に朝鮮でおこった大規模な農民暴動を…
1895年、伊藤博文と外相()が日本全…
下関条約によって、清国は()の独立を認…
日清戦争の後、()・ドイツ・フランスに…
1895年、政府は樺山資紀を()に任命…

32. 帝国主義と日露戦争

第3次伊藤博文内閣の地租増徴政策に反対して、…
第1次大隈内閣は、共和演説事件で()が…
第1次大隈内閣のあとの第2次()内閣は…
1900年、憲政党は、()を総裁にむか…
山県有朋や伊藤博文は政界の第一線からしりぞい…
日清戦争後、膠州湾はドイツ、遼東半島の南部は…
1900年、()を中心に外国人排斥運動…
明治政府内部には、伊藤博文・井上馨らの「満韓…
キリスト教徒の()や、社会主義者の(…
1904年、第1次桂太郎内閣のとき()…
1905年、セオドア＝ローズヴェルト米大統領…
ポーツマス条約によって、ロシアは、()…
()条約で賠償金が全くとれないとわかる…
1905年、朝鮮・フィリピン問題に関して日本…
1905年、日本は韓国と第2次日韓()…
1907年、()事件を契機に、日本は第…
1909年、()がハルビンで安重根に暗…
満州では、1906年に()を旅順におき…
日本が南満州の権益独占したことに對して、門戸…
1911年、三民主義をとる()を中…
桂太郎と、立憲政友会の総裁である()と…
1908年、第2次()内閣は、(…

33. 産業革命と社会運動の発生

1897年、第2次松方正義内閣のとき、日清戦…
貿易品の取扱いでは、三井物産会社などの日本の…
1883年開業した()会社のミュール紡…
1897年、日本最初の国産力織機を発明したの…
1881年、日本で最初の私鉄会社である(…
政府は軍事・経済上の必要から、1906年(…
鉄鋼の国産化をめざして設立された官営(…
政府と密接に結びついていた特権商人である三井…
農業は零細経営が多く、大地主は耕作からはなれ…
日清戦争後の東京の貧民や労働者の実態を調査し…
1897年、アメリカの労働運動の影響を受けた…
栃木県の渡良瀬川流域にある、古河市兵衛が経営…

1900年、第2次山県有朋内閣のとき制定され…
1911年に制定され、1916年に施行された…
1898年、()・片山潜・幸徳秋水らは…
日露戦争の危機が深まるにつれ、新聞『万朝報』…
1906年、第1次西園寺公望内閣のとき、日本…
1910年の()事件により()ら…

34. 明治の文化

明治当初は政府が指導的立場にたって近代化を進…
熊本洋学校で学んだ()は、民友社を結成…
()・志賀重昂らは、政教社をつくり雑誌…
陸羯南(くがかつなん)らは、1889年、新聞…
高山樗牛は雑誌『()』の編集主幹となり…
中山みきがおこした()教や川手文治郎が…
1879年、学制が廃止され、()の自由…
1886年、()文相のもとで、帝国大学…
義務教育は、1886年の小学校令で4年、19…
1890年、井上毅・元田永孚らが起草した(…
1903年、小学校()教科書令が施行さ…
1882年、()によって()が開…
論文「神道は祭天の古俗」を発表して、教職を追…
伝染病研究所を設立し、細菌学の研究を行ったの…
北里柴三郎が設立した伝染病研究所に入り、赤痢…
アメリカに渡り、ニューヨークに研究所を設立し…
磁気歪の研究や原子構造の研究を行った物理学者…
札幌バンドは札幌農学校の外国人教師()…
日本に進化論などを紹介した()は、大森…
鉛製活字の鑄造に成功した本木昌造は、東京活版…
()は文学論『小説神髓』のなかで(…
()の『浮雲』は、言文一致体で書かれて…
『金色夜叉』の作者()や『夏木立』の作…
北村透谷や島崎藤村によって創刊され、(…
めぐまれない女性の姿を同性の目を通して美しい…
処女歌集『みだれ髪』を出した歌人()が…
処女詩集『若菜集』を出した()が190…
ロマン的余裕派として『吾輩は猫である』坊ち…

有島武郎・志賀直哉・武者小路実篤らが創刊した…
歌舞伎の世界では、1890年代には、9代目市…
演劇では、坪内逍遙・島村抱月は()を、…
音楽では、伊沢修二が1887年に設立された(…
日本画では、フェノロサに師事した()が…
西洋画では、浅井忠らが日本最初の洋画団体であ…
1898年、東京美術学校を辞めた()を…
明治20年代には()が郵便局などの公共…

35. 第一次世界大戦と日本

立憲政友会を与党とする第2次()内閣が…
第3次桂太郎内閣のとき、第一次護憲運動がおこ…
第一次()の結果、第3次桂太郎内閣が議…
第一次護憲運動の結果、第1次()内閣が…
20世紀に入ると、ドイツ・オーストリア・イタ…
1914年、サラエボで()皇太子が暗殺…
第一次世界大戦が勃発すると、日本の第2次(…
1915年、日本政府(首相は大隈重信)は、中…
()内閣は、中国の()政府に西原…
1916年、第4次日露()を締結して、…
1917年に成立した()は、日本が中国…
1917年おこった世界ではじめての社会主義革…
第一次世界大戦が始まると日本は大戦景気となり…
大戦景気により、日本は世界第3位の海運国にな…
1918年に南満州鉄道株式会社が設立した製鉄…
1916年、()は雑誌『中央公論』にお…
1918年、シベリア出兵にからむ米の買い占め…
寺内内閣の総辞職後、衆議院第一党の立憲(…
()内閣は、1919年に選挙法改正を行…
1921年、()が暗殺されると、後継の…

36. ワシントン体制と大正デモクラシー

1919年、第一次世界大戦の講和会議が(…
パリ講和会議では、民族自決の原則をとる(…
パリ講和会議に、原内閣は首席全権として(…
1919年、朝鮮では民族の独立を求める(…
1921～22年、アメリカ大統領ハーディング…

1921年、アメリカ・()・フランス…
1922年、米・英・仏・日・伊・ポルトガル…
1922年、ワシントン海軍軍縮条約が結ばれ、…
中国への進出をめぐり、欧米との武力対立を避け…
1912年、()によって組織された友愛…
労働運動は高揚し、1920年には日本最初の(…
1922年、賀川豊彦と杉山元治郎らの指導によ…
民本主義をとなえる()は1918年に(…
1911年()を創設した平塚らいてうは…
1922年、部落解放運動をすすめるために結成…
1922年、モスクワのコミンテルンの指導の下…
1923年12月、無政府主義者難波大助が摂政…
1924年、貴族院の勢力を背景に()内…
第二次護憲運動は、憲政会の()、立憲(…
第二次護憲運動に勝利した護憲三派内閣を組織し…
加藤高明内閣は、協調外交を基本とし、また、満…
加藤高明内閣の成立から1932年の犬養毅内閣…

37. 恐慌と外交政策の転換

第一次世界大戦後の1919年、貿易は(…
1923年におきた()で経済は大打撃を…
1927年、第1次若槻礼次郎内閣は()…
金融恐慌の中で鈴木商店と深いつながりのあった…
立憲政友会の()内閣は、()(支…
1926年、大山郁夫を中心に()党とい…
1928年、()内閣のときに行われた普…
1928年、田中義一内閣のときに行われた共産…
中国国民党の蒋介石が北伐を開始すると、田中義…
1927年、田中義一内閣は()を開いて…
関東軍の一部が()を奉天郊外で爆殺した…
立憲民政党の()内閣は、蔵相()…
1929年おこった()に金解禁があいま…
1930年、イギリスの提唱で補助艦の制限を行…
ロンドン海軍軍縮条約の調印に際し、「統帥権の…
大正末期は週刊誌や『中央公論』『改造』などの…
永井荷風や谷崎潤一郎は()派の作家、芥…

大正末から昭和にかけて、小林多喜二の『(…
『貧乏物語』の作者()はマルクス経済学…
西洋画では、『麗子微笑』の作者()らの…

38. 軍部の台頭

1931年、関東軍参謀石原莞爾らは奉天郊外の…
満州事変に際して、軍部の行動を阻止できなかつ…
1932年、日本軍は清朝最後の宣統帝溥儀を執…
1932年、井上日召ひきいる()員によ…
1932年、海軍青年将校の一団が()首…
犬養毅内閣のあと斎藤実内閣が成立すると、(…
国際連盟は()報告書にもとづき、日本軍…
1931年、犬養毅内閣(蔵相())は金…
八幡製鉄所と財閥系鉄鋼会社などが合同して日本…
世界恐慌後、()経済圏をつくっていたイ…
満州事変以降のナショナリズムの高揚はあらゆる…
()の天皇機関説では、主権は()…
()内閣は軍部・右翼の圧力に屈して、(…
1936年、()の思想的影響をうけてい…
1936年の二・二六事件によって戒厳令が出さ…
広田弘毅内閣は1937年1月総辞職し、その後…

39. 第二次世界大戦と日本

イタリアではファシスタ党を率いた()が…
1936年()内閣は日独()を結…
中国の抗日救国運動が高まり、1936年に張学…
1937年7月7日、第1次()内閣成立…
1937年9月、国民政府と共産党が提携して、…
()首相は1938年1月「国民政府を対…
1937年、第1次()内閣のもとで「挙…
1938年、各工場ごとに労働者と資本家がとも…
1938年、第1次近衛文麿内閣のもと、(…
国家総動員法の規定にもとづいて()が出…
政府は強制的に米を買い占める()制を実…
1939年第1次近衛文麿内閣にかわって成立し…
1939年、()が()に侵攻して…
1940年、第2次近衛文麿内閣は、新党結成を…

1940年、第2次近衛文麿内閣は、()…
1941年、小学校は()に改められた。…
1941年4月、ソ連との妥協をはかって日ソ(…
第3次近衛文麿内閣が成立すると、()仏…
1941年10月、第3次近衛文麿内閣のあと成…
日本は太平洋戦争を正当化するため「()…
1942年、()内閣のもとで行われた総…
1942年6月の()海戦で日本海軍が大…
「大東亜共栄圏」建設のため、1943年(…
開戦後、学生生徒を軍需工場に動員する学徒(…
1945年4月、アメリカ軍は()本島に…
日本の無条件降伏は()により勧告され、…

40. 戦後の民主化と講和

東京に設置され、占領政策を次々と日本政府に指…
GHQの最高司令官は、()元帥である。…
占領政策の国際的な最高決定機関として、11カ…
1946年1月、天皇は()を行ってその…
1945年、GHQは婦人の解放、労働組合の助…
日本の政界・財界・軍部などの戦争指導者が、連…
GHQは、()委員会を通じて財閥の解体…
財閥の復活を防止するため、持株会社やトラスト…
1947年、各産業部門の巨大企業を分割するた…
明治以来の()制を解体し、農村の民主化…
第二次農地改革実施のために制定された法律は(…
労働三法とは、労働()法・労働関係調整…
GHQによって、()・日本歴史・地理の…
1947年、()法が制定され、義務教育…
1945年、無産政党を結合させた日本(…
1946年2月、インフレーション阻止のため、…
1947年、政府は資材と資金を重要産業部門に…
敗戦後、産業資金の融資機関として、()…
1947年、総司令部の命令により中止させられ…
1947年の選挙で日本()党が第一党に…
1948年、昭和電工事件によって退陣した(…
日本国憲法は、西暦()年()月(…

日本国憲法のマッカーサー草案が提示されたとき…
日本国憲法の三原則は主権在民・平和主義・(…
1938年に中間子理論を発表し、1949年に…
第二次世界大戦後の恒久平和を目的とする国際機…
1947年、アメリカは東ヨーロッパに対抗し、…
1949年に組織された、アメリカを中心とする…
アメリカは、マーシャル=プランの実施、NAT…
1947年、ソ連がヨーロッパ諸国の共産党・労…
米ソがことごとく対立した、()(資本)…
朝鮮半島では、1948年、李承晩を大統領とす…
1948年、アメリカ政府はGHQをつうじて、…
1949年、来日した公使の計画に基づいて展開…
1949年、アメリカは()を日本に派遣…
1948年、総司令部の指示に基づく()…
1950年、北緯()度線で戦闘が起こり…
朝鮮戦争の際、日本国内の治安維持を名目に、G…
1950年、共産主義者を職場から追い出す(…
1951年、サンフランシスコ講和会議が開かれ…
1951年、サンフランシスコ平和条約と同時に…
朝鮮戦争でアメリカが、日本に大量の軍事的発注…
1952年に日本は国際通貨基金(IMF)・世…
戦後、絶対量が不足していた食糧は、占領地域救…
警察予備隊は平和条約発効とともに、1952年…
1954年の()協定によって、アメリカ…
1952年、占領中の治安法規にかわって(…
1954年12月、長期にわたった吉田茂内閣が…
1955年、日本民主党と自由党のいわゆる保守…
安定的に政権を保持する自由民主党と、野党の日…
1956年、()が首相のとき、日ソ(…

41. 高度経済成長

1955年、社会主義諸国間で結成された組織を…
1973年和平協定が成立し、アメリカの介入が…
1958年ソ連首相になった()は平和共…
1963年、米・英・ソ3国間で地下核実験をの…
ヨーロッパ経済共同体(EEC)から発展し、1…

中華人民共和国は、1966年から毛沢東を先頭…
1973年、第4次()を契機にして(…
石油危機をきっかけにして、1975年から西側…
発展途上国と先進工業国との格差の問題を(…
1980年代にはいるころから、韓国・台湾・香…
石橋湛山内閣のあとをうけて成立した()…
「寛容と忍耐」を唱えた()首相は、(…
()内閣は、中華人民共和国との貿易拡大…
日本と韓国の国交は、1965年、()内…
1972年の沖縄の日本復帰のときの首相は(…
1972年、()米大統領に続いて田中角…
1976年、()内閣のとき、田中元首相…
1978年、()内閣(外相園田直)のと…
1964年、日本は() (IMF) 8条国…
「神武景気」をきっかけに、日本は()を…
1950年代、高度経済成長が始まると(神武景…
1961年の()法によって、農業構造の…
ニクソン＝ショックにより、1973年、(…
1973年に第1次() (オイルショック…
1960年代の耐久消費財の普及のことを、(…
公害問題に対し、政府は、1967年()…
1965年には()が、1973年には(…
1964年、東京で第18回()大会が開…

42. 現代の世界と日本

1985年、ソ連で()が指導者に選ばれ…
1989年、東西冷戦の象徴であった()…
1990年、イラクがクウェートに侵攻し、それ…
電電公社、国鉄の民営化を実現し、戦後首相で初…
アメリカの日本に対する貿易赤字が顕著だったこ…
1980年代、貿易赤字に悩むアメリカは、日本…
1987年より、企業や銀行の余った資金が不動…
消費税法を成立させ、リクルート事件で退陣した…
1989年、竹下登内閣のとき、昭和天皇が崩御…
海部俊樹内閣のあとをうけた()内閣は、…
1992年、日本新党を結成した()は翌…

羽田内閣のあと成立した社会・自民・さきがけの…
1995年1月17日、()大震災が発生…
1996年に自由民主党の()内閣が成立…
2011年3月11日、民主党の()内閣…
2013年に自由民主党の()内閣が誕生…
軍国主義から開放された日本では、世界で活躍す…
文化の大衆化が進むにつれて、新聞や雑誌、映画…